

昭和32年(1957)に創刊したのが「邑楽村報」。村から町へと発展を遂げる中で「広報おうら」に生まれ変わり、現在に至ります。

— 町民の皆さんと行政をつなぐ架け橋 —

この役割を担う姿勢を変えることはありません。これからも「広報おうら」をよろしく願います。

重ねてきた記録： いま、6000号



広報担当者は記録に残る中で、延べ22人。現在を担当するのは、なんちゃってカメラマン・深澤大樹(前)と、笑顔の伝道師・本澤和樹。肩書はともに自称。

黎明のころ

(昭和32年～昭和42年)

邑楽村は当時、人口約1万6千人、約2,800世帯。純農村地帯で産業に乏しく、人口流出が続いていました。道路のほとんどは砂利道で飲料水は井戸水、公民館など公共施設もほとんどありません。さらに、妊産婦の過重労働や衛生状態の悪さなどから乳幼児の死亡率も高い状況でした。村としての課題は、産業の振興や上水道の普及、母子保健の推進など、どれも切実なものでした。

広報おうらのはじまりは昭和32年に発行された「邑楽村報」。B4判片面印刷でした。当時の広報紙では、上水道や道路、公共施設の建設など社会基盤の整備をはじめ、企業誘致の状況など新しいまちづくりに向けた取り組みを紹介しています。併せて「古い慣習から脱却して文化的な生活をしよう」とか「他人に迷惑をかけないように」といった、啓発的な記事も掲載されています。誰もが生きるのに精一杯ながら、より良い暮らしを目指していました。

躍進のころ

(昭和43年～昭和63年)

昭和43年4月に町制施行。町は高度経済成長の波に乗り、工業団地や住宅団地の造成へと突き進みます。経済基盤が確立したことから、学校や公民館など公共施設の建設も相次いで行われ、町は教育・文化・福祉を推進していきます。一方で、自動車が増えたことによる交通事故の増加や、生活スタイルの変化によるごみの増加など、新たな課題も出てきました。

広報おうらはB5判8ページで年3回発行。昭和48年5月からはA4判毎月発行になりました。紙面では公共事業の状況や、スポーツ大会などイベントの報告、新成人の抱負などが紹介されています。また、子どもが爆発的に増えた時期でもあり、多くの子どもたちの写真が紙面を飾りました。

変革のころ

(平成元年～平成20年)

シンボルタワーを中心とした中央公園整備が進められるなど、町が大きな変革期を迎えます。町立図書館やあいあいセンターなど、全国から注目を集める施設が建設されました。一方で平成の大合併の波が邑楽町にも押し寄せ、町民の

皆さんはどう読む？ 広報おうら

松澤 恵理奈さん・綾音ちゃん
(新中野・33区) 音弥くん

写真がたくさん載っているのがいいです。届いたらまず、流し読みで知人を探します。子どもが小さいので子育てに関する情報、教室や講座のチェックをします。当番医の掲載日程がひと月先なので、2か月分を手元に置いてます。

茂木 源也さん
(宮城県仙台市在住)

仕事で仙台へ移り住んで40年近くが経ちます。町外に住んでいても広報おうらを読みたいので、「ふるさと通信」を利用しています。広報はふるさと邑楽町を知る手段。町の行事や移り変わりを楽しませてもらっています。中でも歴史の記事が好きです。

村上 祐太さん
(本郷江原・29区)

広報おうらはたまに読むくらい。知り合いが載っていると、おばあちゃんが教えてくれるので目を通します。フォトパレットは町のいろいろな出来事が載っていて見ごたえがありますね。同世代の人やスポーツの話題が載っていると、もっと読もうかなって思います。

横塚 優衣さん
(谷中蛭沼・11区)

広報は毎月、一通り読みます。表紙を筆頭に、写真がすごく良いと思います。全ページをカラーにできたら、写真をもっと生かせるんじゃないかな。おじいちゃんやおばあちゃんがよく読むコーナーは、文字の大きさや色合いを工夫してほしいです。

山本 美由紀さん
(光善寺・15区)

毎月楽しみにしています。特集ページから連載記事まで、隅から隅まで読んでますよ。最近はカラーページが多くて見やすいですね。笑顔の写真がいっぱいなので、見ているほうも笑顔になります。そんな中でも、裏表紙のひとりごとが一番好きなんです。

根岸 孝志さん
(店高原・28区)

町のことを知るには何を置いても広報紙だね。町の人、出来事、動きがよくまとまっていると思うよ。広報クイズに応募するのが楽しみの一つだね。孫が載った広報紙は特別で、大切にしまっているよ。記事の内容は、細かくなりすぎないように整理してくれると助かるな。

そして現在

(平成21年以降)

役場庁舎が中央公園に移転。中央公園整備も、中央公民館の建設をもって完了となりました。学校や幼稚園、保育園などの改築もほぼ完了しました。一方で少子高齢化が進行。また、平成23年3月11日には東日本大震災が発生し、地域防災が話題になりました。

広報おうらは24ページから32ページ。カラーページも増え、写真の多い紙面構成になりました。これからも町の歴史や時代の雰囲気、町民の感情などを形にし、次世代にいつまでも引き継がれていくツールとして発行していきます。「手に取れるからこそ伝わる温かみ」とともに……。



橋本 圭司
(現安全安心課長)

昭和55年4月〜昭和62年6月

町民目線の広報紙で 町を良くしていく気概を

社会人になって初めての仕事が広報でした。一眼レフカメラも初体験で、役場の仕事も全く分からない状態の中、先輩の指導を仰ぎながら必死で広報紙をつくっていました。左ひじを脱臼し、ギブスを装着した時も片手で広報紙をつくりました。担当した期間は長かったですが、役場全体の仕事については、広く浅い理解しかできていなかったと思います。

当時の広報紙づくりは全て手作業。行事などの取材をし、写真を撮り、原稿を書き、レイアウト用紙に割り付け、出来上がった物を印刷所へ送り、使う写真を選びながらゲラ刷りを校正し、本印刷 発行という手順でした。この作業を毎月7年間繰り返したことになります。

当時の広報紙の内容は、行事の結果や今後の予定、町からのお知らせなどが中心で、今のよ

広報おうら歴代担当者



広報紙の歴史は町民の暮らしの中にあります。その歴史を記録してきたのが広報担当者です。昭和50年以降の記録に残る広報担当者は、延べ22人。その中で、5年以上を担当し、今は他の部署に勤務する職員が「広報おうら」を語りました。



川田 直也
(現農業振興課係長)

平成9年4月〜平成16年3月

不慣れた担当者にも 優しい町の人たち

私は入職直後から7年間、号数にして84号の作成に携わりました。小さい頃から人見知りの性格で、文章を書くのは苦手、写真を撮ったこともほとんどないなど、今考えてみれば広報紙をつくるのは不可能ではと思われた私に、先輩たちは優しく懇切丁寧に指導してくれました。

担当1年目から街頭でインタビュー。「すみません。役場の広報なんですけど、ちょっとお話をさせてください」とすぐ緊張して話しかけた記憶があります。私が緊張しているのを察してか、ほとんどの人が快く話してくださって、やっぱり邑楽町の人って



栗田 修一
(現健康福祉課主任)

平成15年4月〜平成20年6月

すてきな笑顔や経験が 魅力ある広報おうらに

私も役場に入職して最初の配属先が広報紙を担当するテーマに沿って特派員さんと一緒になって取材を積み重ねながら記事にしていく、とても地道で時間の掛かる作業でした。歴史から子育て、行政の問題、防災など多角的なテーマで特集できたのも皆さんのおかげです。

「町民目線の広報紙をつくる」これが広報おうらの神髄です。毎月、家庭に届けられる広報紙を、どのようにしたら皆さんが読んでくださるか。そればかりを毎日毎日考え、試行錯誤しながらの紙面づくりを、当時の私はしていました。だから、何より楽しみだったのは、取材先で皆さんの笑顔がカメラに収めることでした。

こうして私の広報担当者としての時間は、一瞬の風のよう過ぎ去っていったのです。今、信頼する後輩二人が心を込めて「広報おうら」を毎月号全力でつくっています。なんだか誇らしく思います。

ザイン、レイアウトなどをコンピュータで行い、完成したデータを印刷所に持ち込むを導入しました。

福岡県宗像市に次いで全国で2番目でした。印刷経費を劇的に引き下げ、なおかつ編集者の意図が正確に表現できるツールを手に入れたのです。全国から視察が押し寄せ、広報の世界で邑楽町の名声が一気に高まりました。



半田 康幸
(現生涯学習課長)

平成7年4月〜平成12年3月

前任者から受け継いだ 広報マインド

今から24年前、私の前任の横山利治さん(すでに役場を退職)は、広報おうらの編集にDTP(原稿作成や編集、デ

ただいたりしたことが、大きな支えになりました。

これからも広報おうらが、皆さんから愛され、支えられる広報紙であってほしいと願います。そこで、読者の皆さんへお願いです。広報担当者から取材を受ける機会がありましたら、ぜひ快く取材を受けてください。皆さんのすてきな笑顔や経験が、より魅力にあふれた広報おうらにつながっていくのです。



藤田 和良
(現邑楽町公民館長)

平成16年4月〜平成23年3月

誇りと郷土愛を高めた連載 かけがえのない財産に

私は7年間、広報を担当しました。一か月経つのがこんなにも早いのかと思うほど、一日一日の中身が濃かったというか、とても充実していました。ですから担当した7年間の広報紙全てに思い入れが

あり、強く印象に残っています。おうら祭りでは、祭り翌日が締切日という年があり、火花が打ち上げ終わってから夕方まで写真の選定をしたこともありました。

伝えたい大切な情報をより分かりやすい紙面へと、平成22年5月号に紙面をリニューアル。若い人たちが、自分の生まれ育った郷土の広報紙に目を向けてほしいと新コーナー「若者紹介・DREAM」を始めました。

一方、広報担当を去るときを同じくして、厚川小一さんの「あしもとに故郷」(250回)、細谷清吉さんの「町の歴史」(353回)の連載が幕を閉じることになりました。平成23年3月29日に厚川さん、4月8日に細谷さんが逝去されたためです。細谷さんは、町の郷土史を研究され、全国各地への現地調査や資料を収集し、町の歴史の掘り起こしに

多大な貢献をされました。厚川さんの「あしもとに故郷」は裏表紙に連載していたため、



小林 聖史
(現商工振興課主任)

平成20年7月〜平成26年3月

皆さんの笑顔を楽しみに 風のように過ぎた時間

「企画課広報広聴係」。突

然の人事異動に「えっ、本当に!」。自分の耳を疑いました。それまで写真を撮るのも撮られるのも大嫌いだっただけが、まさか広報担当者になるなんて!

それからというもの、たとえ記事にならなくとも、町内を駆けずり回って写真を撮ったり、子どもからお年寄りまで町民の皆さんの話に耳を傾けたりしながら、毎日のように取材に出掛けました。休み返上の上に、編集作業が深夜に及ぶことも多々ありました。締め切り一週間前なのに「白紙のページが10ページもあるっ!」。これが人生の最後かのように嘆いてみたり…。

つらい思い出もさることながら、それにも増して一号一号どれも思い入れが強く、読み返すと当時取材した情景や、取材した人のお話などが今でも走馬燈のようによみがえります。

特に街角特派員レポートは、特派員の皆さんに大変お世話になった企画の一つ。

歴史と伝統、そして郷土への誇り

町に生きる人々の笑顔と暮らしをこれから



町商工会員協賛

広報おうら600号発行企画

掲載順不同・敬称略

読者プレゼント



195名に
当たります
600号記念
だから

① ラーメン1杯

とことん手作り。こだわりの味をご賞味ください

当店のラーメンは、コシがある麺と黄金色のクリアなスープが自慢。食べ応え満点の佐野ラーメンです。平日限定で6歳未満のお子様ミニラーメンをサービスしています。ご来店をお待ちしています。



佐野ラーメン 麺龍

☎ 80-9590 📍 篠塚1805-1



店主 北山竜範さん

100名

④ ホールピザ1枚 (マルゲリータ)

赤いコンテナが目印。創作ピザとスイーツのお店

平成28年4月にオープンしたお店。モチモチ感の強い生地でホールピザ&ピッツァフリッタ(揚げピザ)を中心にイートインもテイクアウトもできます。



るべりえ

☎ 70-2321 📍 中野4550-3

📄 <https://www.facebook.com/ora.lebelier>

10名

オーナー
中村 優さん

② あいあいセンター商品券 (1,000円分)

作り手の“あい”と、消費者の“あい”の出会いの場

あいあいセンターは、粉食文化を伝え、新鮮で安全な農産物をお届けしています。人気のそばをはじめ、町でとれた新鮮な野菜や名産物を笑顔と一緒に販売しています。

あいあいセンター(邑楽町農畜産物処理加工施設)

☎ 89-1456 📍 中野2644

組合長 橋本恵美子さん



組合長 橋本恵美子さん

10名

③ コンクレバン1本

元気で長生き、100の治療より1つの予防

コンクレバンの主成分はアミノ酸とビタミンB群。血液、筋肉、内臓、皮膚の原料になるアミノ酸製剤です。疲労回復、滋養強壮などの栄養補給に効果があります。



浜田薬局

☎ 88-2749

📍 新中野45-19

薬剤師 濱田孝雄さん

10名

⑥ とりせんUCギフトカード (全店舗で利用可能1,000円分)

豊富な品々を低価格でご提供

とりせんは、“安全”“新鮮”をモットーに普段の生活をもっと便利に、もっと楽しんでいただけるよう、地域のかたがたにご満足いただける店づくりを目指しています。



店長 夢川 歩さん

とりせん邑楽町店

☎ 70-2322 📍 中野3110-3

📄 <http://www.torisen.co.jp/>

05名

600号発行読者プレゼントのご応募とアンケート

600号発行読者プレゼントに応募される人は、はがきに必要事項を記入のうえ、アンケートにご協力をお願いします。抽選で195名にご希望の協賛品をプレゼントします。

⑦ 食パン1本

毎朝こねる、こだわりのパン生地。ぜひご賞味ください



町立図書館の西側にある創業23年のパン屋です。多くの人に楽しんでいただけるパンをご用意しております。チョコプレートやはちみつ食パンはおすすめ商品の一つです。

10名

店主
田中 努さん

フレッシュベーカーリー こむぎ

☎ 88-8088 📍 中野2707-3



⑧ コーヒー飲料200ml (常温保存可・紙パック12本入り)

毎日牛乳を。宅配サービス承ります

当店では、ホモ・特濃・カルアップ・コーヒー・はつらつミルクなどの牛乳をご用意しています。「わたぼくシリーズ」や「低果汁飲料」の明治創業森牛乳の味をぜひどうぞ。

森牛乳邑楽販売店

☎ 88-6114 ☎ 88-0491

📍 篠塚1714-24



10名



店主 稲葉幸男さん

⑨ 銀河水2リットル1本

自然治癒力を高め、健康な体を。健康相談のります

当店は漢方を中心に自然治癒力を高める、健康な体づくりがモットーです。その一つとして銀河水をお薦めします。霧島山麓で取水され、二酸化ケイ素を多く含む水です。いろいろな用途にお使いください。



(有)十字屋薬局

☎ 88-2177

📍 赤堀3969

店主 川嶋拓雄さん

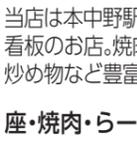
10名



⑩ はなまる食事券 (焼肉2,000円分)

18時30分～深夜2時まで営業。黄色い看板が目印

当店は本中野駅西の踏切の近く黄色い看板のお店。焼肉、ラーメン、ぎょうざ、炒め物など豊富なメニューが売りです。



座・焼肉・らーめん はなまる

☎ 89-1744 📍 新中野2-4

10名



店主 樋口博史さん

⑪ エネロクリーン1本

クリーニング店でしか買えない、すぐれもの洗剤

エネロクリーンは業務用で使用されている洗剤です。靴下・運動靴・上履きの汚れ、白衣・運動着などひどい汚れ……。ズバリ！汚れの落ち具合が違います！



10名

店主
岡田和雄さん

(有)岡田クリーニング商会

☎ 88-0013 📍 中野4962



応募方法

郵便はがきに「必要事項」を記入して、締切までに直接役場企画課へ持参するか、郵送してください。1人1通のみ有効。

宛先 = 〒370-0692 邑楽町役場企画課広報広聴係

■ 必要事項

- 氏名 ● 性別 ● 住所
- 電話番号 ● 年齢 ● 職業
- 希望のプレゼント品
(第1希望と第2希望と第3希望)
- 広報おうらの「ここが好き！」というところと、その理由
- 広報おうらが「こうなったらイイな！」という建設的な意見

その他、広報おうらに関するエピソードや思い出、疑問・質問などあるかたは、ぜひお寄せください。

※ご記入いただいた個人情報は「600号発行読者プレゼント発送」以外の目的では使用しません。

締切 = 平成28年9月30日(金) (必着)

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます(10月下旬予定)。